

「同和問題」について思うこと

現状についての感想・提案
特にその中（現状）での感想・提案
取り組みについて感想・提案
その他の感想・提案

資料 1 - 9

NPO 法人 人権センターなごの
高橋 典男

現状についての感想・提案

分野	状況	疑問・感想	提案
地区・世帯人口	<ul style="list-style-type: none"> ・県内 300 地区、6 千世帯、三万人、少数散在 ・都会への流出 ・一方、同和地区に戻る人たち 	<ul style="list-style-type: none"> ・南信地方には少ない、又はないというのは本当でしょうか ・「ない」とされた木曾や南信地方にも ・何らかの理由（経済、差別）で再び同和地区に戻っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・同和地区では他よりも課題が「よりわかりやすく」「より強く」「より集中して」今の社会を映している ・再び「スラム化」の傾向に対して一般対策に工夫を加えた施策を具体化
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・改善がされてきた ・環境整備された地域 いまま課題をかかえている地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・今古くなった家を建て替えられるだけの生活でないことが心配。またスラム化 ・10 年後、20 年後はどうなっていくのだろうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地にある行政区問題（同和地区をさける）からも・・・ ・一般対策としてどう行うかを検討する場が必要（環境のみならず全ての現状課題を含めて）
仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・部落産業はほとんどみられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・今どうなのか 不安定な就労状況、所得格差、 農業経営・規模・農地保有率・山林保有率など 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握が必要
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化と高齢化が特に同和地区では進行 ・無年金、健康保険の未加入 ・福祉制度が同和地区を素通り（同和地区は利用者が少ない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気になっても我慢して病院にいかない ・介護の制度がわからない（字の読み書き） ・利用したくない理由は 「かつて差別をした人がいっぱいいるから」 「施設では差別発言が・・・いたたまれない」 「迷惑をかけたくないから」 「無年金でお金が払えないから」 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしたらいいのでしょうか（こうしたところに、同和問題固有の課題が） ・再び福祉分野でも現状施策が部落を「素通り」してしまわないために・・・
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・県平均を下回る高校進学率 中途退学率が多い ・大学進学率は県平均の約半数 ・長欠児童生徒数 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ未だに進学率や中途退学率の違いがあるのか ・同和地区の児童、生徒に課題がより深くより集中する原因は・・・ ・単に「格差をなくせばいい」とは思わない ・「誰が同和地区の生徒かを前提とした調査、それが問題だ」という意見に対して・・・（実態把握参照） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握が必要（そして、なぜ・・・を知る必要がある） ・「格差をなくす」や進学率を高めることだけでは、選べる、展望できる機会の保障が必要
識字	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み書きができない ・「恥ずかしい」と思っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読み書きできる」と言いながら名前だけは書ける人 ・差別と貧乏で・・・ ・そのことが「恥ずかしい」とひたすら隠す人 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み書きできるようになることだけではなく、そのことでなくしてきた（置いてきた）人間の誇りを取り戻していくことが識字活動
差別	<ul style="list-style-type: none"> ・明らかにならない（できない） また、インターネット 身元調査 あいつぎ表面化する場合 	<ul style="list-style-type: none"> ・7 割を超える県内同和地区住民の被差別体験表面化するのは氷山の一角 ・インターネット上で毎日書き込まれる文書 また全国各地の同和地区の所在地など「部落地名総鑑」が ・新たな手口での身元調査や戸籍謄本等不正入手 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をできるだけ共有する必要性

特にその中（現状）での感想・提案

分野	状況	疑問・感想	提案
結婚	<ul style="list-style-type: none"> 同和地区の人との結婚が増えている 理解者も増えてきた しかし依然として多い結婚差別 本音と建て前が顕著 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの取り組みの成果 婚姻率では計れない現実（二人は一緒になったが、未だ反対の両親や親戚） 表面化しにくい 何処に相談したらいいのかわかっている まったくと言っていいが、行政の相談窓口へは行かない（行けない） 運動体へも相談は行かない（行けない） 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの相談のあり方を変える 単に相談のみではなく、具体的な「支援」が必要 相談者が支援者として取り組む活動ができていたら・・・ 新たな機関と（人の育成）連携が必要 反対している側への継続したアプローチ 差別をなくすために「私は何をしたらいいのかわかるといえば「一人からの人権宣言」登録（別紙）
「自覚」 「自立」	<ul style="list-style-type: none"> 何らかの時期・機会に同和地区出身を「知る」 自身が部落を「じゃまなもの」「いやなもの」と思っている いつも何かに「おびえている」 「気にしないように」思うようにしている 「寝た子を起こすな」という同和地区の人 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら部落をマイナスとして思い、自信が持てない 「同じだ」「関係ない」「気にしない」と自分にいいかけようとしても、心の奥深くで何かに「怯えている」 差別を受けていること、また結婚など将来受けるであろう差別への怯えと、いたいたまねさを感じている 日常的に感じている精神的圧迫が、「成長」「能力」などに影響を与えている面 同和地区の児童、生徒が部落の意味や意義を継続して学習していける場がない 同和地区の人が「寝た子を起こすな」というのは理由がある起こされた「困る」からそれは差別される現実をよく知っているから （同和地区でない人も同じ事を言うが、「困る」ことは何なのでしょう） 	<ul style="list-style-type: none"> 同和地区の児童、生徒が継続して部落問題を学ぶことができる場が必要 （大人も子どもも）「マイナス」ではない自分にとっての部落を自覚し「自立」していくための相談・支援 差別に負けない「自立」相談・支援 差別をなくそうとする人との繋がりが必要
相談	<ul style="list-style-type: none"> どこに相談したらいいのかわからない 相談しても本当に親身になって支援してくれるか 運動団体への相談 行政等機関への相談（ほとんどない） 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して相談から支援までしてくれる関係がほしい 生活のこと、仕事のこと、教育のこと、介護のこと、結婚のこと、差別のことなど、全てに対応できたらいいのに 	<ul style="list-style-type: none"> 当事者による当事者のための相談 支援（「ピアサポーター」） 「受ける」から訪ねるへの取り組み 関係機関や個人との連携
窓口	<ul style="list-style-type: none"> 国・県・市町村で設置されている 国 = 法務省、人権擁護委員会 県 = 人権男女共同参画課、各地方事務所 市町村 = 人権（関係課）、隣保館 	<ul style="list-style-type: none"> 住民は窓口をどれだけ知っているでしょうか 行政等の窓口で、同和地区の人が相談にいかない（いけない）のはなぜでしょうか 同和地区の人がその「サービス」に満足しているのでしょうか 	<ul style="list-style-type: none"> 当事者に聞くこと 「受ける」から訪ねるへの取り組み NPOなどの位置づけと連携（また、定期的情報交換の場が必要）

取り組みについての感想・提案

分野	状況	疑問・感想	提案
実態把握	・1993年調査以降行っていない	<ul style="list-style-type: none"> なぜ調査を行わないのでしょうか 法はなくなったが、課題はなくなったのでしょうか、差別はなくなったのでしょうか 「どこが同和地区かという法的根拠がなくなったので」・・・という意見があるが、同和地区も差別も存在する さまざまな課題が同和地区により深く、より集中していること、また、同和問題の歴史性やそれぞれの人権問題の固有性に視点をあててほしい (他の人権問題でもそうしているように) 	<ul style="list-style-type: none"> 実態調査が必要 (なお、従来の「格差」調査の視点だけではなく新たな視点で) 問題や課題を把握しない(わからない)のに「他の施策と同じように(一般施策で)」といっても、何をやったらいいかわからないのではないのでしょうか
県民意識	<ul style="list-style-type: none"> ・2001年調査以降行っていない ・2008年調査予定 	<ul style="list-style-type: none"> 「人権全般」で行おうとする調査のあり方に疑問 なぜなら、設問が30とすると、県の10の人権課題で行うと一課題3問、これでどんな意識が把握できるのでしょうか 今後の施策に活かすための調査であってほしい そのためには、分析・考察が必要 同和問題を主に行うとなぜ「特別に」とか「同和問題だけ」という意見がでてくるのでしょうか。そこに課題が・・・ (たとえば、男女共同参画だけの調査を行っているではないか) 	<ul style="list-style-type: none"> こうした調査の分析・考察を行ってきた専門分野における関係者のアドバイスをうけたら 個人人権課題を数年サイクルで行っていくことが本来望ましい
人権施策	・人権課題のひとつとして	<ul style="list-style-type: none"> 人権課題のひとつとして行うことは当然です。 ところで、同和問題解決のために、人権課題のひとつとして「同じように」何を行っているのでしょうか そもそも問題点や課題が明確でない中で何を・・・ 具体的施策と財政措置は何をどのくらい・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> (平成14)県部落解放審議会の答申が出されたが、今日までの「空白」に対し「早急」に早急に行うこと、今後長期的に行うことの視点(方法は他の人権施策や一般対策に工夫を加え) 人権とは「実体」、教育や啓発だけで解決できる問題ではない(別紙・炭谷茂参照)
人権教育・(同和教育)啓発	・人権課題のひとつとして	<ul style="list-style-type: none"> 教育現場では「何を」「どのようにして」また「全人権課題を行うことはできない」などの声 同和問題の現状や歴史について理解している教師が若年層を中心に少なくなっている 	<ul style="list-style-type: none"> 「同和教育」で培ってきた成果と課題を「人権教育」の創造へつなげていく必要性 そのためには、「同和教育」の検証と人権教育への提案・作業が必要
部落史研究調査資料保存	<ul style="list-style-type: none"> ・部落史の見直し ・関係資料の調査研究と資料保存場所 	<ul style="list-style-type: none"> 従来の部落史の見直しが教科書を含め行われている 県内での調査や研究がすすんでいない 貴重な資料の保存と活用がされていない 	<ul style="list-style-type: none"> 部落史見直しの新たな取り組みが必要 研究・学芸員の設置が必要 貴重な資料の保存・活用が必要 新たな調査・収集も必要
審議会	・県人権政策審議会の設置	<ul style="list-style-type: none"> この人権政策審議会は、(平成14)県部落解放審議会を引き継ぐものだと思います その答申内容も再検討し尊重し活かしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 人権政策審議会として(平成14)県部落解放審議会の答申の内容を検討の上意見書(答申)を 来年度から実施すべき「早急」な取り組みと、中長期的な実施計画の検討を (「実体」としての人権問題に対して)
県の機構と人材	<ul style="list-style-type: none"> ・企画部 人権男女共同参画課 ・教育委員会 教学指導課 心の支援室 	<ul style="list-style-type: none"> 同和問題のセクションはどこでしょうか 人権男女共同参画課、心の支援室 <p>障害福祉課 障害者自立支援課 長寿福祉課 子ども・家庭福祉課 地域福祉課(中国帰国者) 生活文化課(チャイルドライン) 健康づくり支援課(エイズ問題) 国際課</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同和問題の専門セクションは専門担当者はいるのでしょうか 教育や啓発だけではない人権は「実体」、その意味を含めた同和問題のセクション 人権課題それぞれに専門性があるように、その人材の育成・位置づけ・配置が必要

その他の感想・提案

分野	状況	疑問・感想	提案
「特別」 「平等」 「同等」	<ul style="list-style-type: none"> ・同和問題だけ「特別扱い」はできない ・「平等に」「同等に」 	<ul style="list-style-type: none"> ・当然です、「特別扱い」などする必要はありません「平等」「同等」当然です ・ところで、かつて同和地区（また同和地区住民）だけなぜ取り残されてきたのでしょうか 「同じように」やってきたら取り残されてこなかったはずではないでしょうか ・だからこそ「特別措置法」という名称により早急な解決のための事業を行ってきたのでは・・・ ・「同和地区の人たちが特別な事業を求めたのでしょうか」「同じようになぜやってくれなかったのか、同じようにやってほしい」ただそのための「事業法」としての方法『特別』という意識がなぜうまれてきたのでしょうか ・（高齢者、障害者、外国人問題の施策も「特別な扱い」なのでしょうか） ・「平等」「同等に」とは「施策の平等や同等」なのでしょうか とすると、事業予算？事業項目？人数？日数？ お互いを傷つけあう言葉・意識ではないでしょうか ・それぞれの人権課題には歴史、固有性が・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて歴史、事実の認識を （「特別措置法」による事業実施において、かつて「なぜ行うのか」という住民への説明、啓発を同時に行わないと、逆に「どうして部落だけ特別に」という、差別意識を増幅させることになる、と指摘し、取り組みが進められてきました） ・同和問題ではなぜ「特別に」「同和問題だけ」という意見がでてくるのだろうか。そこにこそ課題が存在するのではないだろうか
エセ行為	<ul style="list-style-type: none"> ・「同和」にかかわる高額な図書を一方的に売りつける ・最近は様々な人権等課題での高額図書 ・手口も巧妙 	<ul style="list-style-type: none"> ・「お金で済むことなら」「こわいので」と買う人 ・エセ行為は絶対許せない 差別を拡大・助長する行為 「同和は面倒なので、お金で済むことなら」という意識の助長が問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・エセ行為を許さない関係組織の連絡会設立 相談や対応、情報提供も
不祥事問題	<ul style="list-style-type: none"> ・関西地方での部落解放同盟会員などの不祥事 	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人が引き起こした」ではなく、一人ひとりの責任として反省 ・同和地区の子どもたちの思い、一生懸命やってきた人たちの思い 	

分野	状況	疑問・感想	提案
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・差別の現状についての情報は表面化したもののみ ・県民にとどいていない ・「部落差別ってまだあるの」という人たちが、実際には多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「差別事件」だけが差別の現実と思っている人が多い ・行政からの発信はかなりすくない ・差別の現実「確認でき、公表可能」な内容のみ ・表面化しない部分の深刻性をなんとか伝える方法がないか ・展望のある取り組み情報をどう伝えるか・・・など 	<ul style="list-style-type: none"> ・明らかにならない（できない）情報にある、だからこそ伝えなければならない「もの」をどう伝えるかを人権センターながのでは今検討中 ・差別は人間の究極の「醜さ」、その差別をなくそうとする人間の「尊さ」をどう伝えられるか